

## メドハーストの中国語教材にみる官話の一端

Analysing the Characteristics of the Mandarin Dialect in  
Medhurst's Chinese Language Textbook.

塩山正純

SHIOYAMA Masazumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

麦都思是伦敦会的一个传教士，他在 19 世纪的中国传教的同时，还学习汉语、日语等语言，从事圣经翻译和编写字典的工作。编写教材，在当时也是他的主要工作之一，并且为此做出了很大的贡献。麦都思的著作 *Chinese Dialogues, Questions and Familiar Sentence* (1844、1863) 是 19 世纪西洋传教士编写的早期汉语会话课本之一。麦都思以前就有马礼逊 1816 年在澳门初版的教材，麦都思在序言上说“马礼逊的教科书绝版之后，已经过了很长时间了。其间的国际之间的交易，与马礼逊的教科书出版的当时相比，越来越扩大了。因此，专门针对这些方面的教科书的出版是一个具有紧急性的任务”。从这里可以看出，麦都思的第一个会话教科书的出版目的，既是为了解决国际商贸交往上对于汉语的需求，也是为了中西之间交往的西洋人士学习汉语提供方便的。该教材是以汉语官话作为目的语言规范的。作者在序言上清楚地指出“本书由官话来编写的。在汉语当中，老百姓的口语也好，过于简明的文言体也好，反正有各种各样的样式，这本教材就采用了最有普遍性的会话形式。”因此，可以说，该教材是用作者所认为的最标准的官话语音和词汇来编写的。本报告主要针对麦都思在该教科书的会话部分的汉语表达，从语音、词汇、语法结构以及第一版与第二版之间的不同等诸多方面进行分析，并对个别词汇给以解释，阐明麦都思在汉语研究方面的一些特征。

## 1. 出版の時代背景

19世紀に入り、英国などの欧米列強と中国との間の商業、貿易上の往来が益々盛んになった。このような経済活動の往来における需要によって、欧米人によって編纂された会話集、教科書、ハンドブックなどの欧米人向けの中国語教材が陸続と出版されるようになった。これらの出版物の著者の大部分は欧米各国から中国に渡った基督教プロテスタントの宣教師たちであった。そのうちでも、代表的なのがロバート・モリソンであり、モリソンの教材 *Dialogues and detached sentences in the Chinese languages* は1816年にマカオにて出版された。アヘン戦争（1840-1842）の終結、南京条約の締結を経て、中国と欧米諸国との間の往来がより一層盛んになり、中国語教材の類の出版もますます多くなった。メドハーストの教科書 *Chinese dialogues, questions, and familiarsentences, literally rendered into English, with a view to promote commercial intercourse, and to assistbeginners in the language*、そして彼の息子が改訂したその第2版もこの一時代に出版された数多の中国語教材における代表的なものの1つである。

## 2. メドハーストについて

メドハースト（1796–1857）はイギリスのロンドン会の宣教師で、インドネシアのバタビアで布教活動に従事する傍ら、中国語、日本語、マレー語などの諸言語の学習・研究も行った人物である。同時に、彼は聖書の諸言語への翻訳と出版にも従事し、中国語訳『新旧約聖書』は、メドハーストが翻訳委員会の委員長として出版したものである。このほか、彼は字典の編纂と出版に関わる方面でも大きな業績をあげた。彼による中国語の字典としては以下の2つが代表的である。

*Chinese and English Dictionary*, 1842-1843

*English and Chinese Dictionary*, 1847-1848

ワイリーによるプロテスタント宣教師の中国語著訳目録には、メドハーストの著作が94挙げられているが、そのうち、中国語の会話集と教科書については以下の2つしかない。

*Chinese Dialogues, Questions and Familiar Sentences*

*Twenty four Lessons in English and Chinese*

### 3. *Chinese Dialogues, Questions and Familiar Sentences* (1844、1863) について

本書の初版序文には、上海で最初に出版された中国語の会話教科書であると述べられているが、以下の序文の引用部分から、本書の出版目的が見て取れる。

モリソンの教科書が絶版になってから、すでに長い年月が経った。その間の国際的な商業・貿易における往来が、モリソンの教科書が出版された当時と比べて、ますます拡大している。よって、この教科書の出版は、一つの喫緊の任務なのである。<sup>1)</sup>

本書の序文では、採録されている会話文の来源については、全体的には著者自身によって編纂されたものであるとしながらも、同時に以下の2つの教材の内容を利用しているとも述べている。

モリソン *Dialogues and Detached Sentences in the Chinese Language* (1816)

ブリッジマン *Chinese Chrestomathy in the Canton Dialect* (1841)

### 4. 本書の収録内容と構成

初版は Simple sentences、Questions、Remarks、Commercial Regulations、Export duties、Import duties、Dialogue、Orders、Moral Saying、Lessons、Signs などの大項目で構成されている。基本的には1つの項目が1ページに編集されており、合わせて250項目ある。このうち Simple sentences、Questions、Dialogue、Orders、Signs などの138項目の内容は第二版でも継続して採用されている。一方で、Remarks、Commercial Regulations、Export duties、Import duties、Moral Saying、Lessons などの大部分はほぼ全て省略されている。第二版では、内容面で道徳や孝行といった分野の項目が採用されず、以下のような幾つかの商業貿易におけるコミュニケーションや日常生活の会話が採用されている。

1) Medhurst (1844) の教科書序文の原文は以下の通りである。

Morrison's Dialogues having been long out of print, and Commercial Intercourse being now much more extended than when that work was published, a volume like the one now presented to the public was found to be a desideratum.

飲食、面会、旅行、中国語学習、疾病等の場面での簡単な会話。

買物、旅行、宗教、歴史、商業貿易等の場面での幾つかの質問文（答えの文は無し）。

顧客と商店の店員との会話。

買物、清掃、炊事と食事等の場面における使用人に対する命令表現。

茶葉、綿花、シルク等の商品の売買の場面での会話。

家屋の建築、家賃、部屋の設え、方向、保証金等の住居・賃貸に関する会話。

友人同士の会話。

このほか、初版では "Cycle of years" と "Multiplication table" の名称について、それぞれモリソンの教科書の“花甲子”と“九九合数”を採用しており、第二版では "Cycle of years" の名称としての“花甲子”のみ継続して収録されている。さらに、1日24時間の時間表現に関して、モリソンの教科書とメドハーストの初版はいずれも中国の伝統的な十二支の表現のみを用いている。しかし、のちの第二版では、これが西洋式の時間表現に改められている。各版の説明の冒頭部分は以下の通りである。

Morrison : Tsze 子 11 till 1 o'clock

初版：正子 Midnight

2版：一日有十二個時辰以地支為名，夜十二點鐘即半夜起稱為子正

The day has twelve hours, named after the "twelve branch" terms. Beginning with 12 o'clock at night, that is mid-night, the hour is called mid "tsze".

体裁に関して、初版、第二版ともに漢字一つ一つに対してその語義とローマ字による発音とを表記しているが、表記の位置については両者に違いがある。初版の発音表記は漢字の右側上方にあり、語義が下方にある。一方、第二版では発音表記が漢字の左側にあり、語義が右側にある。初版には、第二版のような英文による注釈がない。第二版の体裁はモリソンの教科書に同じである。

初版の冒頭は序文と収録内容の目次であり、巻末には英文による語彙索引、部首一覧、漢字索引などの付録が収録されている。しかし、如何なる原因かは不明であるが、第二版になると、これらの付録がいずれも削除されており、基本的には会話とフレーズ中心の簡潔な内容構成に変化している。南京条約と天津条約の締結を経て、商業貿易のコミュニケーションに関する知識のニーズが日に日に高まった社会情勢の影響からか、本書の第二版も商業貿易のコミュニケーションに関する解説部分がより充実した。とりわけ数量、度量衡、通貨の表現などがより詳細になった。

## 5. 音声表記について

漢字の発音表記に関しては、メドハーストは基本的にモリソンの方法を継承しており、大部分はモリソンと同じである。ただ、モリソンが有気音と無気音を区別していなかった点については、メドハーストは省略や誤りもあるものの、モリソンが [ch] 1 音に表記したものを [ch, ch'] の 2 種類に分割して表記するように改めるなど、有気音と無気音の区別については大きく改善した。<sup>2)</sup>

### 5. 1 声母について

メドハーストの字典 *Chinese and English Dictionary, 1842-1843* は声母を以下の 20 種類に分類している。

ch, ch'h, f, g, h, j, k, k'h, l, m, n, p, p'h, s, sh, t, t'h, ts, ts'h, y

(g は a、e、o の前面に加えられる)

本書は初版と第二版で若干の相違はあるものの、両者の声母に関する表記は基本的には以下の通りである。

ch, ch', f, h, j, k, k', kh', k'h, l, m, n, p, p', s, sh, sz, t, t', ts, ts', tsz, tsz'

(w, y を含まない)

ちなみに、声母 [k, k', kh', k'h] について見てみると、[k'] は “可” [k'o] と “口” [k'ow] の 2 例しかなく、[k'h] は “器” [k'he]、 “起” [k'he]、 “去” [k'heu] の 3 例しかない。よって、この [k'] と [k'h] についてはひとまずは印刷時の文字組みにおけるミスであると見なしても良いだろう。<sup>3)</sup>

### 5. 2 韻母について

メドハーストの字典 *Chinese and English Dictionary (1842-1843)* は韻母を以下の 55 種類に分類している。

2) ジャイルズ (Giles 1892) の華英詞典の序文参照。

3) また [ts, ts', tsz, tsz'] については、[tsz] と [tsz'] は “子” [tsze] “磁” [tsz'e] の場合に見られる表記である。

a, ǎ, ae, an, ǎn, ang, ǎng, aou, ay,  
 e, ěa, ěae, ěang, ěaou, ěay, ěě, ěen, ei, eĩh, en, ěō, eu, ěuě, ěuen, ěũh, ěun, ěung,  
 ew,  
 ĩh, in, ing, o, ǒ, oo, ow,  
 üě, üen, ũh, un, ung, urh, uy,  
 wa, wǎ, wae, wan, wǎn, wang, wǎng, wei, wo, wō, wũh, wuy, ze

声母の場合と同じく、本書は初版と第二版で若干の相違はあるものの、両者の韻母に関する表記は基本的には以下の通りである。

a, ae, ah, ai, an, ǎn, ang, ǎng, aou, ay,  
 e, e, ěa, ěae, ěang, ěaou, ěaou, ěay, ěeh, ěen, eh, ei, eih, en, ěoh, eu, eüen, ěuh,  
 eung, ěung, ew  
 ih, in, ing, o, oh, oo, ow,  
 üen, uh, un, ung, urh, uy,  
 wa, wae, wai, wan, wang, wǎn, wei, wo, who, woo, wuh, wuy

このほか、表記が[y]で始まるものは以下の通りである。

ya, yang, yaou, yay, yen, yew, yih, yin, ying, yao, yu, yu, yuh, yun, yung, ,  
 yüeh, yüen

上記の音声に対応する漢字は順に“鴉、洋、要、也、鹽、有、一、因、英、藥、與、魚、育、運、用、月、遠”である。また、[yu][yun]を[yu][yun]と表記するものもある。

エドキンズ1857は、「漢語（中国語）」が多くの場合で、官話を話すひとは韻母[a,e,o]の前に[ng]の音を加える、また [ng]に替わって[g]となることもある、と述べている。しかし、メドハーストの教科書では、このように表記されたところは殆どなく、第二版では僅かに1例が、“按”を[ngan]と表記するのみである。

エドキンズの指摘とはこの点で相違があるが、メドハースト自身は本書の中で、この教科書の音声表記はすべて官話に則っている、と明確に述べている。このことから、本書で描かれている各々の音声表記は、官話音に対するメドハーストの認識が反映したものと見なすことができよう。

## 6. 教科書の語彙的特徴

「官話」を“Mandarin (マンダリン)”と称するのは17世紀の西洋人宣教師によるものである。その意味するところは、政府の官僚、或いは官僚たちが公務の場面で使用した言語である。メドハーストは初版の序文でつぎのように述べている。

この教科書ははじめから終わりまで全て官話によって書かれている。例えば、一般的な民衆が使用している口語性が強すぎる口頭語や、或いは簡潔すぎる文言文など、表現が極端であると思われるものは採用せず、最も普遍的なスタイルをもっている会話を採用している。

メドハーストの言う通りであるとするならば、この教科書はメドハーストが最も標準的であると考えている音声と語彙によって書かれたものであると言える。ここから本書の語彙について初版と第二版で共通するもの、両版で違いがみられるもの、その他の語彙の3点にまとめて、その特徴をみていきたい。

### 6. 1 初版と第二版で共通する語彙的特徴

(1) 本書の初版では、動詞“没”が単独で使用される例文に関しては、“没酒”1つか用例がなく、第二版でも“没钱”、“没人”各1例しかない。“没有”の例文数はこれとは異なり、初版には“没有钱”、“没有铺子”、“都没有”の合計3例あり、第二版で見られる例文はさらに多くなり、“没有空兒”、“没有钱”、“没有雨傘”、“没有量”、“没有飯吃”、“没有房子住”、“没有違例”、“没有准單”、“没有錯誤”、“没有生意”などがある。

(2) 本書で否定を表す副詞の“没”は例文が大変少なく、完了を否定する場合には“没有”を用いる。“没”は初版では“没得飯食”の例文しかなく、第二版でも“没帶現銀子”の例文1つしかない。また、初版には“没有”の用例が無いが、第二版では、“没有弄好”、“没有傷人”、“没有偷漏走私”、“没有開鎗”、“没有起卸”、“還沒有到”、“没有打掃”などの数多くの用例が見られる。

(3) 受身と使役の動詞について、“請”の表現(“請+人称+动词”)は、初版で10例見られ、第二版では17例見られる。ここから、“請”の表現が当時にはわりと一般的に使われていたと言うことができる。初版、第二版ともに“讓”の例文は見られない。“叫”については、初版には用例が無いが、第二版になると、“叫英人比他多出”、“叫人過秤”、“叫一個人相幫”、“叫他天天送兩個饅頭”、“叫他每日帶一斤牛奶”、“叫賣菜的也天天擔幾

様來”、“叫你賠”、“叫人疑心嫌棄”などの数多くの用例が見られる。このほか、2つの版本ではいずれも“被”の字が見られない。

(4) “去”と“來”の大部分はいずれも目的を表す動詞の前に置かれる。“去”について、初版では“去看”と“去見他”が見られる。一方、第二版では“去看看”、“去見見”、“去見他”、“去买”、“去賣”、“去看看”、“去請”、“去睡覺”、“去替”、“去弄”などの用例が見られる。“來”については、初版では“借個雨傘來”のように動詞の後ろに置かれるもの、“來看鋪子”などのように動詞の前に置かれるものがいずれも見られる。第二版では、“來”が動詞の後ろに置かれるものでは、“借一把雨傘來”の用例があり、動詞の前に置かれるものでは、“來看看鋪子”、“來看看”、“來看”、“來照顧”、“來看一看”などの用例がある。これらの用例は、「雨傘」の量詞に変化があり、動詞が重ね型に改められていることを除いては、さして特筆すべきことは見られない。

(5) 認識を表す動詞について、本書は“知道”を使用すると同時に、“曉得”も若干数見られる。“知道”は初版では1例、第二版では7例である。一方で、“曉得”は初版で“不曉得老爺要來”、“我聽不曉得”の合計2例しか見られない。このほか、第二版では“曉的”が1例見られる。しかし、初版、第二版ともに“覺得”の用例はない。

(6) 動作を表す動詞については、“幹”がなく、“做”を使った例文が数多く見られる。初版では“做工”、“做生意”、“做和尚”などを使用した例文が見られ、第二版では“做甚麼”“做奴才”“做和尚”“做甚麼”“做工”“做買賣”“做領事”“做戲僧”などが見られる。

(7) 出発を表す動詞については、“起身”が初版、第二版の同一部分の同一の例文中に1つ出現する。一方で、“起身”は2つの版本ともに用例がない。

(8) 共同を表す介詞はほぼいずれも“同”である。例えば、初版の“同我走”や第二版の“同我一塊兒走”などである。“跟”は第二版ではただ“跟人耍”(1例)のみになる。また、“和”も第二版で“和甚麼字一個様子”と“和洋字一個様”だけになる。“替”も第二版では“替他查辦”と“替我找”の2例だけになる。

(9) 連詞は大部分が“同”である。初版、第二版ともに“飯同黃薑”“黑酒酸酒同(那)三變酒”などの例文が見られる。2つの版本ではいずれも連詞の“和”は見られない。“連”の例示については、2つの版本間で些か違いがあり、初版では“房子盡壞連貨物燒去甚多”とし、第二版では“許多貨連房子都燒乾淨了”とする。

(10) “照着”は第二版にのみ3例見られる。

(11) 禁止を表す副詞の“別”は、初版、第二版ともに例文が見られない。“不要”は初版に1例、第二版に4例見られる。また、“勿”は初版にのみ3例見られる。

## 6. 2 初版と第二版の間で違いが見られる語彙

(1) 「儿化」の語彙については、初版には見られないが、第二版では例文が数多く見られるようになる。第二版が初版の名詞を「儿化」したものには、例えば以下の例のように、“那裡→那兒、名→名兒、實價→實價兒、時→時候兒、話→話兒、半點鐘→一會兒”などがある。

<第一版>那裡來的。

<第二版>是那兒來的。

このほか、第二版にはさらに“幾兒、昨兒、這兒、逛逛兒、一塊兒、閒兒、空兒”などの語彙が見られる。

(2) 初版は“幾多”を使った例文が数多く見られ、このほかに“幾大”、“幾久”などもある。初版で疑問を示す“幾～”は、第二版では見られなくなり、大部分が“多少”に改められている。

<第一版>幾多錢。

<第二版>要多少錢呢。

(3) 飲食を表す動詞について、初版はすべて“食”を用いているが、第二版はこれを2種類に分け、食べる行為は“吃、喫”を用い、飲む行為は“喝”を用いている。

<第一版>食飯、食完魚、食酒、食飽、食雅片

<第二版>吃飯、吃過了魚、喝酒、吃飽、吃鴉片煙

(4) 「与える」意味を表す動詞について、初版は一般的に“裨”を用いているが、第二版では“給”だけを用いている。介詞に関しては、初版では以下の用例のように“裨”、或いは“與”を用いるが、第二版では“給”に改められている。

<初>請你把幾樣綠茶裨我看。

<2>請你拏幾樣綠茶給我看看。

(5) 「概ね」の意味を表す副詞について、初版は“諒約”を用いるが、第二版では“大約”に改められている。

(6) 不定副詞では、初版で“弗”としていたものが、第二版では全て“不”に改められている。

(7) 概数を表す“～(的)光景”が、初版では例文が見られないが、第二版では4例用いられている。

<第二版>每担值得二拾二三兩的光景

(8) “狠”は初版では“～得狠”(4例)の用例しか用いられていないが、第二版では、例えば“狠豊盛、狠好看、狠難、狠多”など、大変多く用いられている。

(9) 理由を尋ねる疑問詞は、初版では“為何”(4例)が使われ、第二版では“為甚麼”(4例)が使われている。

<第一版>為何昨天不來

<第二版>為甚麼昨天不來

### 6. 3 その他の語彙的特徴

本書の例文中の時間表現はいずれも西洋式を採用している。解説部分では、初版では十二支による表現を使用しているが、第二版になると変化が現れ、十二支と西洋式の表現を対比させて解説している。例文中に現れる地名については、2つの版本に共通する特徴は、いずれも茶葉、シルク、綿花、磁器などの中国の特産品の産地、例えば湖州、四川、山東、閩東、武夷山、景德鎮などを出していることである。地名では、このほかに上海、南京、福建、広東などの東部沿海の省や都市が挙げられる。また、初版で“某地方”とされていたものが、第二版では“京里 Peking”となった。初版では“哦囉嘶國、英國、華旗國”など3つの外国名が現れたが、第二版では“花旗國”一カ国に減り、あわせて“華”の字が“花”に改められた。そして、Chinese に対する中国語訳は、“中華人”から“中國人”に改められた。「ファーストフロア (一階)」を表す語彙は“樓底”から“樓下”に改めら

れ、「汚い、不潔である」意味を表す語彙は、“汚穢”から“骯髒”に改められた。このほかに、初版では動詞“收拾”がなかったが、第二版では3例現れた。

## 7. 小結

以上で見てきた通り、メドハーストとその息子が編纂した教科書に対する本稿の考察は、主として彼らが考えるところの中国語の「官話」に焦点を当て、その発音表記と語彙の特徴について簡単な分析を試みたものである。

先ず、その音声表記について、メドハーストは本書の序文の中で、彼が教科書の中で採用した言語はすべて官話であると明確に述べていることから、「5. 音声表記について」にまとめた本書の発音表記を彼が認識したところの官話音の反映であると見なすことができるであろう。メドハーストの中国語教科書の2つのバージョンの音声表記にはさほどの違いは存在しない。エドキンズが指摘したように、メドハーストは母音[a, e, o]の前の[ng]（或いは[g]）を音声表記に反映させなかったが、ジャイルズの指摘にあるように、有気音と無気音の区別をつけたことを除いては、その音声表記はモリソンをはじめとする他の西洋人の中国語研究者と概ね一致している。よって、メドハーストの中国語の音声表記は19世紀の西洋人中国語研究者の一般的な見方を示していると言えよう。

つぎに、語彙の面では、初版にはなかった語彙が第二版で数多く出現した。具体的には、2つのバージョンは基本的にはいずれも南方語の語彙を基礎としており、この特徴は初版で比較的明確に見られる。これが第二版になると、例えば、「儿化」を示す「儿」の文字が表記されるようになり、副詞の“狠”、さらに介詞としての“给”等が現れるといったように、幾つかの北方語の特徴が出現する。ここから、我々は、メドハーストが普遍的な中国語の官話と認識していた官話、或いは本書が出版された上海の官話に、2つのバージョンが出版される間に、一定程度の変化が発生した、というふうに判断することができる。本書の2つのバージョンの会話の内容と例文は大部分が同じであるが、両者の間に存在する語彙の変化に関する分析を通して、19世紀の中国における時代の変遷と発展を感じることができるのである。

## 参考文献

- Morrison 1816. *Dialogues and detached sentences in the Chinese Languages*  
 Medhurst 1844, 1863. *Chinese Dialogues, Questions, and Familiar Sentences*  
 Wylie 1867. *Memorials of Pro testant Missionaries to the Chinese, American Presbyterian Mission Press*  
 H.A.Giles 1892. *Chinese-English Dictionary*  
 伊伏啓子 2008. 「馬禮遜的《通用漢言之法》1815」馬禮遜來華200周年記念國際學術研討會  
 塩山正純 2010. 「馬禮遜的中國語教科書簡析」清代民國時期漢語國際學術研討會